

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究  
—建築計画分野からみたキャプション評価を援用した評価シートの検証—

研究分担者：松原 茂樹（国立大学法人大阪大学・工学研究科・准教授）

研究要旨：認知症者が在宅生活を継続できるよう、作業療法士等が訪問せずに写真を使って簡単に生活状況を評価し、生活の維持・改善に向けた介入ができるシステムを開発する。パイロットテストを踏まえ、撮影する場所や位置、方向等の検証し、撮影項目を確定した。

#### A. 研究目的

認知症専門医と作業療法士などの多職種が協働して、感染症まん延下においても認知症者の認知症疾患別また重症度別に適切な在宅支援が可能となる非訪問型の生活評価・介入システムを構築するために、建築計画分野から住環境評価の指標を作成することを目的とする。

#### B. 研究方法

非訪問型の住環境評価の指標を作成するためにキャプション評価を援用し、評価シートを作成する。キャプション評価とは元来、都市景観評価のために1995年に開発された手法である。気になる箇所をカメラで撮影し、それについてのコメントを決まった書式に従って記述し、写真とコメントのセットで1枚のカードにして評価する手法である。前年度の検討を踏まえ協力者にパイロットテストを実施した。なお、大阪大学医学部附属病院倫理委員会(承認番号(22552(T5)-2))より承認を受けている。

#### C. 研究結果

適切な在宅支援を行うため、行為とその場所を対応させた結果、玄関・エントランス、リビング、食堂、キッチン、寝室、洗面室・浴室、庭・ベランダを対象とし、それぞれで

行う動作を選定した。そのうえで、協力者が簡単に撮影できること、かつ写真を使って非訪問型で作業療法士等が評価を行うことができることの条件を満たすため以下の検証を行った。撮影する位置、方向、その場所の全体や家具・家電製品といった細部がわかるよう撮影することを決定した。

#### D. 今後の課題

撮影項目と撮影の手引きを用いて、協力者に撮影を依頼し、非訪問型の生活評価を最適に行うことが今後の課題である。

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし